

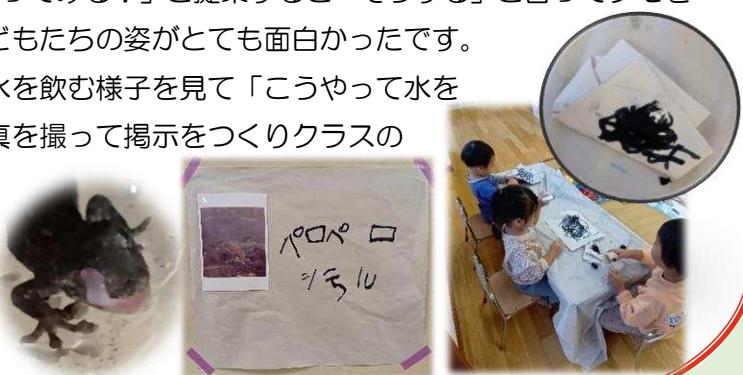
# 12月の園だより

令和7年 12月 1日  
目黒区立ひもんや保育園長

園で飼っているヤモリ（5匹）が大好きな子どもたちです。夏の間、幼児クラスの子どもが毎日裏庭に行ってシジミチョウを捕まえたり、蜘蛛を捕まえては「クモいた！」と急いでヤモリの虫かごに入れたりしてくれました。子どもたちもヤモリが生きていくためには生餌が必要なことをちゃんと知っています。そんな幼児の姿を見てきた2歳児の子どもが「あ、クモいた！」と空想のクモを指さすと他の子も「どこ？」「どこ？」と両手で捕まえ始めました。その様子はいつも幼児クラスの子が動くクモを必死に捕まえようとする姿そのものでした。そのうちにひとりの子が「捕まえた」と言って持って行ってしまったので大変です。「ぼくが見つけたクモだ！」と大騒ぎになりました。担任が「じゃあ、クモ作ってみる？」と提案すると「そうする」と言ってクモを作りました。架空の世界でこれだけ本気で楽しめる子どもたちの姿がとても面白かったです。

5歳児の子どもは、ヤモリが舌を出してペロペロと水を飲む様子を見て「こうやって水を飲むんだ。みんなに教えてあげなくちゃ」と自分で写真を撮って掲示をつくりクラスの前に張り出していました。

生き物を通して様々な知識、遊びも広がっています。  
また、幼児クラスの子どもから乳児クラスの子どもへの繋がりも大切に見守っていきたいと思います。



## 【調理保育】リンゴの皮むき

1、2歳児クラス

おやつのリンゴを目の前で剥いてもらいました。リンゴの皮をウサギの形に切っているのを見て、「ウサギのみみ」と嬉しそうです。耳（皮）だけを食べて「みみ、たべちゃった」という子や、大事そうに最後まで耳を残して食べている子もいました。

調理前の食材を見たり触れたり、目の前で、切ったり作ったりする過程を見ることで、食への興味がさらに広がっていくような食育をこれからもしていきたいと思います。



# 子どもが夢中になっている遊び（幼児クラス編）

## 「入れたらどうなるかな？」 たんぽぽ組（3歳児クラス）

庭の落ち葉の山を見つけ「これは水の中に入れたらどうなるだろう」という子がいました。さっそくペットボトルに水を入れ、落ち葉を入れてみるとペットボトルの中身の色が変わり「見てみて。色が変わったよ」と近くにいた友達に知らせています。さらに「ここに砂を入れたらどうなるんだろう」と砂を入れていくと、浮いていた落ち葉が沈んでいくことに気付きます。「すごい。葉っぱが下に落ちたよ」「どうして下に落ちていくの」とまるで大発見をしたかのようにみんなで目を丸くしていました。友達の発見を見て、数人の子もペットボトルを持って来て落ち葉と砂を入れ、同じことを試すと「これも下に落ちる」「みんなで実験だね」と盛り上がり、発見を友達と共有しながら遊んでいました。大人が思いつかないような子どもたちの興味や関心を面白がり共有しながら、一緒に楽しんでいきたいと思います。



## 「回してみよう」 こすもす組（4歳児クラス）

ジオフィクスで“四角錐のコマ”を作り、コマ回し対決が盛り上がっています。最近ではたくさん作って対決することを楽しむだけでなく“回すこと”に興味を持ち始めた子どもたちです。ある日、ディスペンサーの蓋やとんがりのある玩具などをトレイに並べ「回してみよう」と実験が始まりました。順調に蓋やとんがりのある玩具を回すことができ「よし」と嬉しそうな子どもたちでした。「これはどうかな」とオセロの駒やままごとコーナーにある巻きすしも持ち出してきました。「それは回らないでしょ」という声が聞こえる中、「こうやってみたら？」とあの手この手を使ってどうにか回そうと何度も挑戦していました。偶然うまく回ると「すごい」と歓声があがり、また別の玩具を持ってきて試したり「こうすればできるんだよ」と得意気に教え合って楽しんでいました。友達と一緒にわくわくしながら試したり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを存分に味わってほしいと思います。



## 「音遊び」 ひまわり組（5歳児クラス）

最近クラスでは“音あそび”がブームになっています。口笛が上手な子が吹いた口笛を近くにいた子が気付いたことがきっかけとなり「ほかにも音あるかな？」と周りの音に興味を持ち始めました。手をたたいたり、ひざをトントンしたり、ジャンプした時の“トンッ”という音にも気づき「こっちは高い音！」「ここはドンってするね！」と体から生まれる色々な音の違いを楽しむようになりました。徐々に他の子どもたちも加わり、クラス全体に“音探し”的ワクワクが広がっていました。

部屋では、椅子をそっと引いたときの「ぎいっ」という音や、玩具をなでたときに出る小さな音にも耳をすませ“生活の中の色々な音”を見つけて楽しんでいます。園庭では、ペットボトルとジョーロをたたき合させて音を出す遊びが始まりました。その後、ジョーロのノズルと本体をぶつけてリズムをとるという遊びに発展しました。子どもたちは言葉もなく集まって、それぞれのリズムを重ねて自然と“音の掛け合い”も生まれていました。

日々の遊びの中で出会う音が、子どもたちのワクワクした気付きや興味へと広がっていった“音遊び”です。冬の子ども会では子どもたちが見つけた音を楽しむ姿を写真で展示したり、ガチャガチャバンドを奏でたりします。

